

令和6年11月28日

浦添市議会議長 殿

議会運営委員会
委員長 濱 崎 早 人

議会運営委員会視察報告書

令和6年10月16日から令和6年10月18日まで、議会運営視察を実施いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

- | | |
|---------|---|
| 1 視察期間 | 令和6年10月16日（水）～令和6年10月18日（金） |
| 2 視察場所 | 愛知県常滑市議会 愛知県豊田市議会 |
| 3 視察項目 | オンライン委員会について |
| 4 視察参加者 | 濱崎早人 比嘉武宏 大城 翼 具志堅興一 儀間光秀 仲間 烈 金城大輔 又吉健太郎 比嘉克政（※議長） |
| 5 調査内容 | 別紙のとおり |

| 別紙 1 | | 委員会名：議会運営委員会 | |
|--|-----------------|-----------------------|-----------------|
| 視察日 | 令和 6 年10月17日（木） | | |
| 視察先 | 愛知県常滑市 | | |
| | 人口 | 58,729 人 | （令和 6 年10月末日現在） |
| | 市面積 | 55.90 km ² | |
| | 議員定数 | 18 人 | |
| 視察市の概要 | | | |
| <p>常滑市は愛知県知多半島の西海岸に位置し南北に細長い街で、気候は年間を通じて温暖で適度の雨量があり、海、山の幸に恵まれています。</p> <p>昭和29年4月1日、常滑町、鬼崎町、西浦町、大野町および三和村の4町1村が合併して誕生しました。その後、昭和32年3月31日に南部に隣接した小鈴谷町のうち、大谷、小鈴谷、広目及び坂井の4地区が市域に加わり、現在の常滑市となりました。</p> <p>農業は大規模な耕地整備が進められ、野菜、果物などの栽培が盛んです。漁業も盛んで、魚の宝庫といわれる伊勢湾から多種類の魚が獲れ、のり養殖も行われています。</p> <p>平安時代末期ころからの「古常滑」と呼ばれる焼き物の産地として知られ、瀬戸、信楽、越前、丹波、備前と並び、日本六古窯のひとつとされ、中でも最も古く最大の規模とされています。</p> | | | |
| 調査項目 | | | |
| オンライン委員会について | | | |
| 調査理由 | | | |
| <p>全国的に地震、津波、豪雨など大規模な災害が発生しており、本県においても台風、土砂災害などあらゆる災害が発生する可能性がある。そういった自然災害のほか、感染症の蔓延、傷病、育児、介護等の事由において、議員が本会議や委員会に出席が困難な場合にオンラインによる方法で出席を可能とするための体制を備えておく必要がある。</p> <p>常滑市議会においては、「常滑市議会委員会条例」を改正しオンラインによって委員会に参加させることを可能にすることとしており、申し合わせ事項の策定や設備機器の整備も行われていることから、常滑市議会の先進事例を参考とするため視察を実施する。</p> | | | |
| 調査事項 | | | |
| <p>【オンライン委員会について】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入の目的、経緯について 2. 導入までの流れについて 3. オンライン委員会の開催の状況及び留意点について 4. オンライン出席のメリット・デメリット及び実施しての課題について 5. 今後の展望について | | | |
| 考察 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍において、無症状の感染者や濃厚接触者となった議員の対応を考える必要があり、タブレット端末導入に合わせ、大規模災害の発生時や感染拡大防止に備え、また、育児や介護等の欠席事由に対応するために検討したとのことでした。 ・ オンライン委員会に必要な機材等の準備、環境づくりが必要であるため映像を撮影するカメラ、ソフトやアプリの入った端末、会場のインターネット環境、議員が自宅で使用する端末、自宅のインターネット環境や委員会で映す大型モニターなどを整備、また機材を準備しなければならなかった。実施した結果、コロナ禍で3回実施採決を要するものではなく、説明を聞く程度であったため評価をするにはいたっていない。メリットとして委員の体調に問題なければ委員会に出席は可能、デメリットとしては通信環境の配慮と急な開催となった場合は次第書等の変更等を要する。 ・ 議会機能強化のためのデジタル化についてオンライン一般質問やオンライン請願受付等は検討に至っていない。今後起きるであろう大災害時、世界的なパンデミックに備え、必要な機材とインターネット環境は本市でも必要かと思えます。試験的にオンライン会議をすることを進めたい。 ・ 常滑市、豊田市ともに、オンライン委員会の導入はコロナ禍時の総務省からの通達であった。人との接触の制限や感染時の自宅待機の場合に対応するためのもので、両市とも実施回数は少なく、コロナが5類に移行した後の実施はないとのことだった。 ・ オンライン委員会の実施について、年に一回の練習のための実施などはあるか質問した際、常滑市はやっておらず、豊田市はやっているとの事だった。 ・ 両市とも、実施回数も少なく、今後の実施する機会もあまり想定できないことから、オンライン委員会の活用の仕方は今後の課題であるとの事だった。 ・ オンライン委員会の課題として、機材の調子や通信状況に左右されることがある。民間でもオンライン会議などはかなり実施されているので慣れていけば大丈夫だろうが、議会においては実施の機会がそもそも少ないので突然実施となった際の準備や段取りが大事になるだろうと思う。 ・ 浦添市議会では一人に一つタブレットが支給されているので、オンライン委員会の開催となればそれを活用することとなるが、オンラインでタブレットのカメラを使うとなると、資料の閲覧に支障が出る。また、委員会室側にカメラやマイクなどの機材の準備が必要となる。常滑市は市役所を新築した際にそういった機材を全て揃えたそうである。 ・ 委員会室のオンライン対応を考えた時、予算を伴うことになるが、実際の使用頻度を考えると費用対効果に課題があると思う。しかしながら、災害時や、今後の育児や介護をしている議員が増えてくる可能性もあるので、そういった議員には在宅でのオンライン委員会は活用できると考えられる。 | | | |



| | | | |
|---|---------------|------------------------|---------------|
| 別紙 2 | | 委員会名：議会運営委員会 | |
| 視察日 | 令和6年10月17日（木） | | |
| 視察先 | 愛知県豊田市 | | |
| | 人口 | 415,233 人 | （令和6年11月1日現在） |
| | 市面積 | 918.32 km ² | |
| | 議員定数 | 45 人 | |
| 視察市の概要 | | | |
| <p>豊田市は愛知県のほぼ中央に位置し、愛知県全体の17.8%を占める広大な面積を持つまちです。美しい山々や清らかな河川に恵まれ、古くは「衣（ころも）の里」と呼ばれていた豊田市。昭和26年、挙母（ころも）町は「挙母市」に市制を施行し、昭和34年には、市を二分するほどの議論の末、企業都市として発展することを誓い「豊田市」に市名が変更になりました。</p> <p>豊田市の令和4年の製造品出荷額等は、14兆9,758億円で全国第1位です。そして、その中でも自動車関連工場の製造品出荷額等は、13兆8,983億円で全体の92.8%を占めています。全国有数の製造品出荷額を誇る「クルマのまち」として知られ、世界をリードするものづくり中枢都市としての顔を持つ一方、市域のおよそ7割を占める豊かな森林、市域を貫く矢作川、季節の野菜や果物を実らせる田園が広がる、恵み多き緑のまちとしての顔を併せ持っています。</p> | | | |
| 調査項目 | | | |
| オンライン委員会について | | | |
| 調査理由 | | | |
| <p>全国的に地震、津波、豪雨など大規模な災害が発生しており、本県においても台風、土砂災害などあらゆる災害が発生する可能性がある。そういった自然災害のほか、感染症の蔓延、傷病、育児、介護等の事由において、議員が本会議や委員会に出席が困難な場合にオンラインによる方法で出席を可能とするための体制を備えておく必要がある。</p> <p>豊田市議会においては、「豊田市議会委員会条例」を改正しオンラインによって委員会に参加させることを可能にすることとしており、運用要領の策定や設備機器の整備も行われていることから、豊田市議会の先進事例を参考とするため視察を実施する。</p> | | | |
| 調査事項 | | | |
| <p>【オンライン委員会について】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入の目的、経緯について 2. 導入までの流れについて 3. オンライン委員会の開催の状況及び留意点について 4. オンライン出席のメリット・デメリット及び実施しての課題について 5. 今後の展望について | | | |
| 考察 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 令和3年6月定例会において議会委員会条例の一部改正、出席の特例、秘密会の開会と指定者以外の退場を改正。令和4年3月に運用要領の策定を行う。開催前日までに事由の発生で委員が議会局へ連絡、出席の申出・委員長の許可、書面による届出と委員長による許可を取る。開催当日一時間前に通信環境の確認実施。通信が切れた場合は途中で欠席扱いとみなし、これまでに3回のオンライン会議を実施し、今後の展望については出席要件の見直し、議会機能強化のためのデジタル化に対応した議場改修をしていきたいとのこと。 豊田市も常滑市同様にコロナ禍の中でオンライン会議を3回実施のみコロナが5類になり、オンライン会議は行われていませんが、今後大規模な災害、地震、台風などにより道路や橋が寸断されたときにはオンライン会議をしていく。 常滑市、豊田市ともに、オンライン委員会の導入はコロナ禍時の総務省からの通達であった。人との接触の制限や感染時の自宅待機の場合に対応するためのもので、両市とも実施回数は少なく、コロナが5類に移行した後の実施はないとのことだった。 オンライン委員会の実施について、年に一回の練習のための実施などはあるか質問した際、常滑市はやっておらず、豊田市はやっているとの事だった。 両市とも、実施回数も少なく、今後の実施する機会もあまり想定できないことから、オンライン委員会の活用の仕方は今後の課題であるとの事だった。 オンライン委員会の課題として、機材の調子や通信状況に左右されることがある。民間でもオンライン会議などはかなり実施されているので慣れていけば大丈夫だろうが、議会においては実施の機会がそもそも少ないので突然実施となった際の準備や段取りが大事になるだろうと思う。 浦添市議会では一人に一つタブレットが支給されているので、オンライン委員会の開催となればそれを活用することとなるが、オンラインでタブレットのカメラを使うとなると、資料の閲覧に支障が出る。また、委員会室側にカメラやマイクなどの機材の準備が必要となる。常滑市は市役所を新築した際にそういった機材を全て揃えたそうである。 委員会室のオンライン対応を考えた時、予算を伴うことになるが、実際の使用頻度を考えると費用対効果に課題があると思う。しかしながら、災害時や、今後の育児や介護をしている議員が増えてくる可能性もあるので、そういった議員には在宅でのオンライン委員会は活用できると考えられる。 | | | |

